

特集

〈事例〉

手芸や折り紙の作品が 知名度アップと会員拡大に貢献

公益社団法人
奈良市シルバー人材センター

(奈良県)

奈良市SCでは、平成27年度に女性部を発足した。「手作り教室」や「折り紙教室」の企画・開催のほか、多くの市民が利用する20か所の施設で作品を常設展示し、作品の巡回展示を年2回行うなど活動の幅を広げたことで、センターの認知度が上がっている。作品を見た市民からは教室への参加や入会の問い合わせがあるなど反響も大きく、女性会員の拡大に貢献している。

奈良市SCの会員数は、平成25年度から減少に転じ、平成26年度には前年度より327人減の1702人、女性会員数は132人減の476人となった。

そうした情勢を受けて会員拡大が喫緊の課題となる中、平成27年度に女性会員拡大策の一つとして、女性部が発足した。

後藤勝己事務局長は「女性会員を増やすには、女性の活躍の場を創出して、魅力あるセンターづくりを必要があると考えました」と、取り組みの目的を話す。

女性部による教室が好評

女性部のメンバーは、理事を含む6人。活動として、2つの教室

を企画・開催している。教室で作品のアイデア出しや材料の調達は話し合ってから決め、講師は全てメンバーが持ち回りで担当。会費は実費のみ(300〜600円)。毎回2時間程度で、大作を作る場合は2回に分けて行っている。

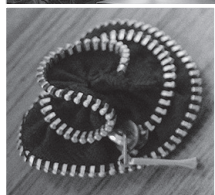
また、会員が未入会者を誘って参加することで、新入会員の獲得につながりたいという狙いもあった。

- 「手作り教室」

平成28年度から、「手作り教室」を毎月第4月曜日にセンターの会議室で実施していた。しかしコロナ禍は、開催頻度を2〜3か月に1度に減らし、人数も最大10人に制限。令和3・4年度は、4月、6月、8月、9月の主に第4月曜



女性部が企画・開催する「手作り教室」(写真上)。この日は、ファスナーを使ったブローチ(写真左)を作った



日に開催して、各回5〜10人が参加している。多くの場合、参加者は会員のみだが、令和3年4月に行った「金魚のつるし飾り」作り



女性部部長の奥田和子さんが講師を務める「折り紙教室」(写真上)。折り紙作品(写真下)は、市役所や郵便局、銀行などの市内20か所で窓口に飾り、2か月ごとに交換して季節感を演出している



毎年5月と10月には、啓発ポスターと共に、市内3か所を巡回しながら女性部の作品を展示している

女性部の折り紙作品は、市役所や銀行、郵便局の窓口など、市民が多く利用する施設20か所に飾り、2か月ごとに交換している。訪れた人に季節を感じてほしいという思いから、作品は干支やひな人形、金魚といった季節感のあるものが

市内各所での作品展示が普及啓発につながる

参加者からは「また、折り紙を楽しみたい」との声があつたことから、令和5年1月27日に同じ会場で折り紙教室を開催し、7人が参加。1人の女性が、新たに入会するという成果につながった。

には、未入会者2人が参加した。

●「折り紙教室」

平成29年度にスタートした「折り紙教室」は、女性部部長の奥田和子さんの提案で始まり、自身が講師を務めている。

「提案したときは、折り鶴など一般的なものを作ると思われて、賛成する人は多くありませんでした」と奥田さん。

しかし、独創的な折り方に加え、ハロウィンやクリスマス飾

り、リースなどインテリア小物にもなる折り紙とあつて人気が高まっている。令和3年度は人数制限をしながら10回、令和4年度は毎月開催しており、各回4〜7人が参加している。

奥田さんは「手作り教室は、何を作るかアイデア出しに苦労しますがどんな考えられるので、続けることができている。材料の準備などは大変ですが、皆さんに喜

んでもらえると疲れも吹き飛びます」と、やりがいを感じている。

いずれの教室も、スタート当初は、会員が未入会の友人・知人を誘って参加する姿が見られたが、近年は未入会者の参加はまれである。また、会員の参加者もほぼ同じ顔ぶれだという。

その要因は、開催場所であるセンターが市の東部に位置し、公共交通機関でのアクセスが不便なことが挙げられる。実際、市の西部

に住む会員からは「参加したいが遠い」という声が上がっている。

そこで、令和4年12月16日、西部公民館で行った入会説明会の開催に合わせて、同じ会場で「折り紙体験教室」を実施した。体験教室には、会員8人が参加。入会説明会の参加者も見学し、うち1人が体験教室に参加した。

中心となつている。

作品を展示している施設の職員からは、市民に好評で喜ばれているという感想が聞かれた。また、作品を見た市民からは「作り方を教えてほしい」といった問い合わせがセンターに寄せられており、PRに一役買っている。

毎年5月と、普及啓発促進月間の10月には、市役所1階連絡通路シルキア奈良ホテル日航、北部会館3階市民文化ホールの3か所で、啓発ポスターと共に女性部の作品を展示している。作品は会場を巡回し、令和4年度は5月16日〜6月21日と、10月7日〜11月4日に実施した。

以前も普及啓発を目的に、市役所などを利用して、パネル展示を行っていたが、女性部の作品が多くなったことから作品展示に切り替えたところ、市民から「入会説明会に参加したい」という問い合わせが増加したという。

後藤事務局長は「女性部の活動



そろいの赤いエプロンを着用して、「もちいど夜市」に参加した女性部メンバー（写真上）。折り紙のハロウィーン飾り作りの無料体験は子どもたちに人気だった（写真下）



のおかげで、センターの認知度が上がっている」と、手応えを感じている。

イベントでの作品の 展示販売が好評

女性部は、平成28・29年度に奈良県SC協議会主催の「シルバーフェスタinなら」で、作品を展示販売した。ブースには、6か月の製作期間を費やした大規模なつるし飾りと、アイデアと技術を駆使

して製作した華やかな布小物や編み物、折り紙作品を出品し、来場者の目を引いた。売れ行きも好調だったという。

令和4年度は、コロナ禍で「シルバーフェスタ」の中止を余儀なくされたが、女性部は新たに地元商店街のイベント「もちいど夜市」に参加することにした。

この夜市は、アフターコロナでのイベントの在り方を検証する意味を込めて、令和4年10月21・22

日の19〜22時ごろに「もちいどのセンター街」で3年ぶりに行われた。もちいどの（餅飯殿）は、近鉄奈良駅から南に300mほどの奈良町に位置し、そこにつながるセンター街の名称。幅3mほどのメインストリートに、新旧100以上の店が並んでいる。

このイベントでの出店準備には時間をかけられないため、後藤事務局長は飾り台を用意してディスプレイをシミュレーションするなどして女性部をサポート。大型のワイヤーネットに作品を掛ける展示方法は「目に付きやすい」と商店街の人たちにも評判で、2日間で76作品、計3万1500円と、売れ行きも良かった。購入者には、商品と一緒にセンターの案内チラシを袋に入れて渡し、店頭にはセンターの住所や電話番号などを記したカードを置いてPRした。

また、作品の展示販売スペース横には、ハロウィーンが間近ということもあって、折り紙のハロウ

イーン飾り作りの無料体験コーナーを設置。5分程度で完成するよう途中まで仕上げたものを20セット用意したところ、初日で全てなくなってしまう。そのため、2日目には急ぎよ25セットを用意したという。

夜市に参加した女性部メンバーからは、「お客さんとやりとりができて、楽しい時間だった」「また参加したい」との声が聞かれ、有意義な取り組みだったことがうかがえる。女性部の活動が、もちいどのセンター街の広報誌で紹介されたことも、メンバーのやりがいにつながったようだ。

新たな制度の導入で 会員が大幅に増加

令和3年度の会員数は前年度より86人増加し、1542人となった。そのうち女性は59人増の49人となった。

その要因は、女性部の活躍ばかりでなく、令和元年度に導入した

「夫婦会員制度」と「プラチナ会員制度」にもある。

●「夫婦会員制度」

夫婦でセンターに入会した場合、夫または妻のどちらかの年会費が半額（1000円）になる制度。

すでに入会している男性に制度を周知し、妻が入会するケースが多い。令和5年1月末日現在で、93組が登録している。

●「プラチナ会員制度」

プラチナ会員制度は、高齢などの事情で就業はできないが、センターのイベントやボランティアへの参加を希望する会員を対象に設けたもので、年会費は500円。加齢や体調を理由に、更新を迷っている会員の退会抑制に効果を発揮している。中には退会後に再度プラチナ会員として登録する人や、年度途中で差額会費を支払って正会員に復帰した人もいる。令和5年1月末日現在で、61人が登録している。

このように、センターの施策が

奏功して大幅な会員拡大を実現したが、後藤事務局長は「今後とも会員拡大は大きなテーマです。女性会員の活躍の場を拡充していくとともに、さまざまな活動を継続して取り組んでいくことで、魅力あるセンターであることをPRしていきたい」と語る。

新たな取り組みとして、令和4年11月15日には、一般財団法人奈良の鹿愛護会と連携し「クリーンアップならディアパーク2022」と題して、奈良公園内の清掃ボランティアを行った。センターからは男女合わせて会員37人と、職員3人が参加。13時〜15時20分に全員がセンター名入りのグリーンのビブス（ベスト）を着用して、のぼり旗を立ててPRしながら清掃活動を行った。清掃活動の後には、奈良の鹿愛護会職員から鹿の生態についてレクチャーを受けたほか、秋の風物詩・鹿の角切りを行う鹿苑角ぎり場など、日ごろ入れない施設を見学した。

このように、センターの施策が

「会員は、楽しみながら活動していました。女性部の活動を盛り上げるとともに、さまざまな魅力ある行事を展開して会員拡大につなげていきたい」と、後藤事務局長は語った。

(井本旬子)

事業運営状況 (平成29年度～令和3年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成29	1,104	444	1,548	1.2	888 (95,514)	57.4	5,496	474,866	24.0/76.0
30	1,076	448	1,524	1.2	1,087 (96,601)	71.3	5,078	487,562	24.3/75.7
令和元	1,041	449	1,490	1.1	1,071 (97,152)	71.9	5,185	501,814	24.2/75.8
2	1,019	437	1,456	1.1	1,018 (91,600)	69.9	4,883	484,267	27.9/72.1
3	1,046	496	1,542	1.2	1,023 (90,512)	66.3	4,868	480,957	29.0/71.0

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む